



地域のチカラ

2

子どもとお年寄りを地域で守る 半端ない山階学区の見守り活動

京都府京都市山科区 山階学区自治会連合会

一昔前では、小学生の登校時に通学路沿いで門はききをしているおばちゃんや「おはよう、いってらっしゃい」と声をかけてくれる、出かける前にはお隣さんに声をかけていく、お味噌やお醤油を借りあったりするといった近所づきあいが当たり前でした。

しかしながら、近年核家族や共働きの世帯が増えたこと等により、昼間、家に誰もいない家庭が増え、人と人とのつながりが希薄になり、このような近所づきあいは縁遠くなりつつあります。

そのような中、小学生が犠牲となる事件や一人暮らしの高齢者の孤独死等が後を絶たず、安心して暮らしている環境をつくるのが喫緊の課題となっています。

山階学区自治会連合会（会長・住友正歳

さん）では、地域の将来を担う子どもたちの「登下校の見守り」と、「高齢者から鍵を預かり、いざという時に安否確認をする仕組み」をつくり、山階学区から一人たりとも犠牲者を出さないことを目標に活動をしています。

子どもみまもり隊

■活動のきっかけ

山階学区では、自治会連合会を中心に、当初は高齢者を見守る訪問活動を実施することを目的として「山階安らぎの街づくり会」を平成15年の結成を目指して準備を進めてきました。

しかしながら、平成11年の京都市伏見区日野小学校児童殺害事件、平成13年の大阪教育大学附属池田小学校無差別殺傷事件、平成15年の京都府宇治小学校無差別襲撃事件など、小学生が犠牲となる事件が相次ぎ、急遽、子どもたちの安全を守ることを優先として、平成16年5月に山階小学校「みまもり隊」を結成しました。

■トランシーバー活用により 連携強化

準備段階で関わっておられた役員の方が、「みまもり隊」結成目前にお亡くなりになり、遺族の方が「子どもたちの見守りのために役立ててほしい」と会に寄付をしていただ



きました。

役員で相談をした結果、いただいた寄付は、見守りの際に異変があった場合すぐに学校と情報共有ができるよう、トランシーバーの購入に充てることに決めました。これがトランシーバーを活用した見守り活動の始まりであり、4台のトランシーバーが今も活躍しています。

■登下校見守り活動の方法

朝は7時30分から8時30分、午後は2時から4時過ぎまで、18名で活動をしています。通学路のうち、特に危険な箇所(交差点、三叉路等) 8箇所のポイントには一人ずつ配置し、うち4名はトランシーバーを携帯

しています。

その他の10名については、フリーとし、23の登校班を登校してくる通学路に分かれて配置をしています。

18名の役員は、1年生から順番に顔と名前まで覚えて覚えるようにし、最終的には6年生まで全員の顔と名前を覚えるようにしています。そうすることで、子どもたちの登下校を見守っている際に、登校していない子どもがいれば直ちにトランシーバーで連絡をし、小学校に伝わるようにしています。

■負担は禁物!

楽しく気軽に活動を

活動は毎日のことなので、負担を感じな

いよう、用事がある時、体の調子が悪い時はいつでも休んでいいという雰囲気づくりを心掛けています。

活動できるメンバーでその日の配置を決めて活動をしています。

■その他の活動

P T Aが主催する事業を小学校で実施する場合、必ず駐輪場の整理、事業の補助をしています。そうすることでP T Aの役員も自治会連合会や各種団体が実施する事業の際に必ず来てくれて、持ちつ持たれつの関係ができ、異世代交流が自然と生まれ、地域コミュニティの活性化にもつながっていきます。



さあ!今日の配置場所へ行くぞ!ついでにゴミ拾いもしてこよう!



児童の登校による交通規制。さあ7時30分。車両誘導も頑張るぞ!



それぞれ今日の配置に着きます



横断歩道、安全に渡らせませ



小学校主催の校外学習や野外活動の引率も行っています。

きっかけは、小学校の先生から、「5年生の校外学習で登山をするが、3名ほど登れるか心配な子どもがいる」と相談されたことです。登山が得意な役員が「それなら自分がその3名の補助要員として引率しよう」と決めたことからです。

■取り組みの成果と今後の活動

成果は、平成16年の活動開始から「1件も事故がない」ことです。

全児童の安全を守ることが目的であり、事故や事件がないことが何よりの成果だと思っています。

新しく「みまもり隊」として活動したいという方からの申告もあり、今後もこの活動を途切れることなく継続させ、山階小学校の子どもたちの安全を守り続けていきたいと思っています。

高齢者の鍵預り安否確認

■活動のきっかけ

これまでも地域で高齢者を訪問しての見

守り活動は行われてきましたが、2年前のある日の会議で、「訪問しても応答がないと心配」「何か様子がおかしいと思っても鍵がかかっている、壊してでも入るか判断に困る」等の意見が出たため、大阪府寝屋川市の例を参考に、2016年1月から「高齢者鍵預かり事業」をスタートしました。現在45世帯が登録をされています。

■鍵預かり安否確認の仕組み

①鍵預かり事業の仕組みや内容を十分にご理解いただいた高齢者世帯から鍵を預かります。

②預かった鍵は、緊急時に24時間いつでも鍵が受け取れるよう、夜間も宿直者がいる地域の施設が保管しています。

③鍵預かり事業に登録している世帯に、「新聞や郵便物がたまっている」「洗濯ものが何日もたまっていない」等、あらかじめ決められた入室基準にあてはまる緊急事

態が発生した場合は、自治会連合会役員等が鍵を受け取り、鍵を開けて安否確認を行います。

■取り組みの成果と今後の活動

この2年間で鍵を開けたのは3件あり、うち2件は大事には至りませんでした。残りの1件は鍵を開けるとお風呂場で80代女性が倒れておられ、すぐに病院に搬送した結果、体調を回復されました。

今後は鍵預かり事業の登録者数を増やすためPR活動を行い、高齢者が安心して暮らせる地域を目指します。



おはよう！気をつけて渡ってね



気をつけて行ってらっしゃい！